

# 2024 年度

## 環境経営 Report

(対象期間：2023年12月1日 ~ 2024年11月30日)



発行日：2025年 3月 1日

株式会社エスプールロジスティクス

## － 目次 －

	ページ
1. 組織の概要	2
2. 環境経営方針・理念・行動指針	3
3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
4. 主な環境負荷の実績・環境経営目標及びその実績	5
5. 環境経営計画の取組結果とその評価	7
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	10
7. 2024年度結果と2025年度の目標	10
8. 代表者による全体の評価と見直し指示	12



(流山センター)



■ 登録番号 第10860390 (08)号



再エネ100宣言  
RE Action



(品川センター)

# 1. 組織の概要

## (1) 名称及び代表者

◆株式会社エスプールロジスティクス（エスプール100%出資）

社長執行役員 梅田 和督

## (2) 所在地

◆本社 〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル6階

■品川センター 〒108-0075 東京都港区港南 5-4-36

■流山センター 〒270-0117 千葉県流山市森のロジスティクスパーク三丁目204番-1

【従業員数】 194人（1月1日付）

## (3) 対象範囲

■本社 従業員数：7人

■品川センター（LOGISTICS Laboratory Shinagawa）

<https://www.spool.co.jp/service/logi/company/>

坪数：2,300坪（1F～5F）

従業員数：88人

■流山センター

坪数：3,500坪

従業員数：99人



## (4) 段階的認証について

2021年8月 品川センター取得

2025年8月 本社、流山センター拡大（取得予定）

## (5) 環境管理責任者および担当者連絡先

責任者： 事務局長 渡部 和弘 TEL 03-6859-6565

担当者： 品川センター長 渡部 康孝 TEL 03-6773-4680

流山センター長 田中 雄太 TEL 04-7156-3033

(6) 事業規模：資本金：30百万円

(7) 事業年度：12月1日～11月30日

(8) 事業内容 ◆ECフルフィルメントサービス ◆越境物流代行

◆自社物流構築支援/荷役請負

【物流拠点】 品川、流山

【取扱実績】 取引企業 100社 出荷件数 50万件/月（2024年12月現在）

化粧品

健康食品

アパレル

雑貨

サプリ

書籍

加工食品

酒・飲料

etc

## — 環境経営方針 —

株式会社エスプールロジスティクスは、以下のエスプールグループの環境方針を自社の方針として、社会および経済の発展に貢献することを事業活動として推進します。

### <環境理念>

私たち株式会社エスプールロジスティクスは、エスプールグループの理念「アウトソーシングの力で企業変革を支援し、社会課題を解決する」を推進し、雇用創出に関する目標を中心に、事業基盤を支えるダイバーシティ&インクルージョンに継続して取り組んでいきます。そのためにSDGsが対象としている地球環境と当社事業活動との調和を図り、環境に配慮した企業経営を推進していきます。

### <環境方針・行動指針>

#### 【法令遵守】

1. 環境に関する**法規制**を遵守します。

#### 【環境負荷低減】

2. **環境改善目標**を定め、継続的な環境改善活動を実践します。

3. 省エネ活動による**電力使用量**の削減を実践します。

4. 環境に配慮した容器・包装の導入により、環境に与える負荷の低減に努めます。

5. **水使用量**の維持管理を行い節水に努めます。

6. 省資源による仕事に努め**廃棄物の発生量**を削減します。

#### 【環境マインドの醸成】

7. 継続的に従業員に対する環境教育を計画的に実施することで、環境保全に対する意識向上に努めます。

8. 国、地方自治体などが定める環境に関する**規則法令等**を遵守します。

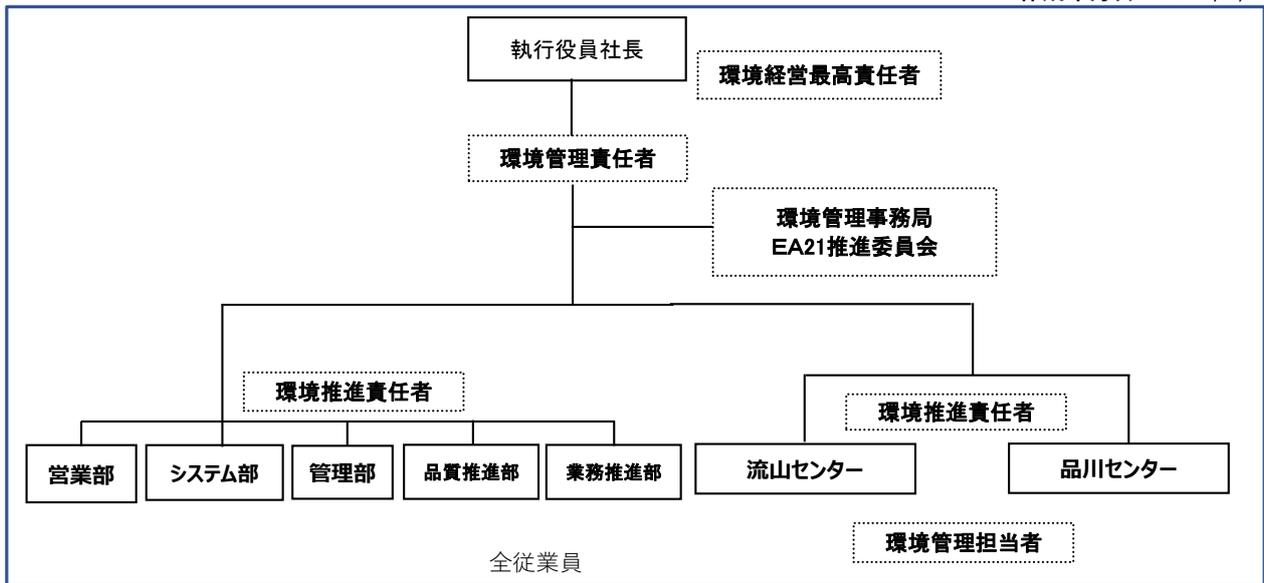
9. 社内要所に環境経営方針を掲示し、全社員にEA21環境経営システムを周知徹底します。

2023年12月1日 改訂  
株式会社エスプールロジスティクス  
社長執行役員 梅田 和督

### 3. 実施体制・組織図・役割・権限

作成者： 渡部 和弘

作成年月日：2025/3/1



名称	役割・責任・権限
社長 (梅田 和督)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境経営に関する統括責任</li> <li>●環境管理責任者を任命</li> <li>●経営における課題とチャンスを確認する。(要求事項2)</li> <li>●環境方針を定め、誓約する。(要求事項3)</li> <li>●環境経営を実践する為の必要十分な実施体制の構築 (要求事項7)</li> <li>●実施体制において各自の役割、責任、権限を定め、従業員に周知する(要求事項7)</li> <li>●実施及び管理に必要な経営資源(人、もの、資金、情報等)を用意する(要求事項7)</li> <li>●代表者による全体の評価と見直し実施(要求事項14)</li> </ul>
環境管理責任者 (渡部 和弘)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境管理システムを構築、実施、管理</li> <li>●環境への負荷及び取組の自己チェックの確認、承認</li> <li>●法規制等の遵守状況をチェック</li> <li>●環境方針の案作成及び環境目標の設定</li> <li>●環境活動実施計画および実績の確認・集計・評価</li> <li>●問題点の是正、予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置</li> <li>●環境活動の取組結果の代表者への報告</li> <li>●環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> </ul>
環境推進責任者 (田中 雄太) (渡部 康孝)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>●環境への負荷及び取組の自己チェックを作成し、事務局を通じ環境管理責任者へ報告</li> <li>●「環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックリスト」を作成し、管理責任者へ報告</li> <li>●環境活動計画並びに運用手順書を作成し、実施達成状況を集計し、環境管理責任者へ報告</li> <li>●従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>●特定された緊急事態に対する項目の手順書作成、テスト・訓練・記録</li> </ul>
E A 21推進委員会 (事務局：渡部/鈴木) (名越・加藤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境経営システム運営のすべての事務</li> <li>●文書及び記録の管理保管</li> <li>●環境活動の審議及び実績の確認・評価</li> </ul>
内部監査チーム (鈴木 里枝)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境経営システム運営に関する内部監査の計画、実施、報告(管理部)</li> </ul>
環境管理担当者 (フロア選任)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自部門における環境管理システムの実施</li> <li>●自部門の従業員に対する環境訓練の実施</li> <li>●自部門に関連する環境目標および環境活動計画の実施、達成状況の報告</li> <li>●自部門に必要な環境関連手順書の作成、運用管理</li> <li>●自部門に必要な緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練、記録</li> <li>●自部門の問題点の発見、是正、予防措置</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚(要求事項3,6)</li> <li>●決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

#### 4. 主な環境負荷の実績

##### ■ 全社センター合算 (品川+流山)

2022.12-2023.11 2023.12-2024.11

項目		単位	2023年度	2024年度
電気使用量		kWh	718,045	939,584
二酸化炭素排出量		kg-CO2	319,523	441,015
廃棄物排出量	①一般廃棄物排出量	kg	154,999	199,199
	処理費用	円	370,194	414,770
	③産業廃棄物排出量	kg	24,540	22,032
	処理費用	円	2,762,056	2,710,475
	総排出量(①+②)	kg	179,539	221,231
	処理費用合計	円	3,132,250	3,125,245

##### ■ 品川センター

2022.12-2023.11 2023.12-2024.11

項目		単位	2023年度	2024年度
電気使用量		kWh	584,528	598,339
二酸化炭素排出量		kg-CO2	278,820	285,408
排出係数		kg-CO2/kWh	0.477	0.477
廃棄物排出量	①一般廃棄物排出量	kg	124,965	76,801
	処理費用	円	324,874	342,027
	③産業廃棄物排出量	kg	19,630	5,142
	処理費用	円	2,275,240	993,111
	総排出量(①+②)	kg	144,595	81,943
	処理費用合計	円	2,600,114	1,335,138
水使用量		m <sup>3</sup>	843	549

##### ■ 環境目標・実績

項目名	単位	2021年度	2022年度		2023年度		2024年度		評価	2025年度		
		2020.12 - 2021.11	2021.12 -2022.11		2022.12 -2023.11		2023.12 -2024.11			2024.12 -2025.11		
		基準値	目標	実績	目標	実績	目標	実績		目標	実績	
		基準年	基準年度比 1%減	基準年度比 削減率	基準年度比 2%減	基準年度比 削減率	基準年度比 3%減	基準年度比 削減率		基準年度比 4%減	基準年度比 削減率	
電気使用量 ※1 	kWh	636,682	630,315	613,298 (96.3%) 3.7%削減	623,948	584,528 (91.8%) 8.2%削減	617,582	598,339 (94.0%) 6.0%低減	○	出荷作業時間増に伴う使用量の増加もあるも基本運用ルールに基づき実施管理にて、基準値より低減継続	611,215	データ 採取継続
CO2排出量	kg -CO2	314,521	311,376	292,543 (93.0%) 7.0%削減	308,231	278,820 (88.6%) 11.4%削減	305,085	285,408 (90.7%) 9.3%低減	○	上記に伴い、CO2排出量も低減、同様の行動結果を反映	301,940	データ 採取継続
一般・産廃物 総排出量・金額 ※2 (①+②) 	kg	120,827	119,619	178,330 148% 48%増加	118,410	144,595 120% 20%増加	117,202	81,943 68% 32%低減	◎	生産量増大もビニール廃棄物を分別し、廃棄物量自体を低減。そして循環型リサイクルの徹底を継続し、廃棄費用金額を経年大きく低減させてきている。	115,994	データ 採取継続
	円	4,107,497	4,066,422	3,381,576 82.3% 17.7%削減	4,025,347	2,600,114 63.3% 36.7%削減	117,202	1,335,138 32.5% 67.5%低減			3,943,197	データ 採取継続
水道水使用量 	m <sup>3</sup>	914	905	905 99.0% 1%削減	896	843 92.2% 7.8%削減	887	549 60% 40%低減	◎	パート・アルバイトの増員に伴う節水啓蒙活動を継続、使用量低減	877	データ 採取継続

評価は、実績値/基準値の%で表す。削減目標の場合、100%以下なら「目標達成：○」、以上の場合は「未達成：×」とする。

※1 CO2排出係数 0.477kg-CO2/kWh：2022年 ENEOS(株)公表

※2 一般廃棄物については、可燃ごみ1袋=5kg

作成日：2025年2月1日  
EA21推進委員会事務局 渡部

4. 主な環境負荷の実績

■ 流山センター

<基準年度>

2023.7-2023.11      2023.12-2024.11

項目		単位	2023年度	2024年度
電気使用量		kWh	133,517	341,245
二酸化炭素排出量		kg-CO2	40,703	155,608
排出係数		kg-CO2/kWh	0.456	0.456
廃棄物排出量	①一般廃棄物排出量	kg	30,034	122,398
	処理費用	円	45,320	72,743
	③産業廃棄物排出量	kg	4,910	16,890
	処理費用	円	486,816	1,717,364
	総排出量(①+②)	kg	34,944	139,288
	処理費用合計	円	532,136	1,790,107
水使用量		m <sup>3</sup>	-	-

※排出係数：東京電力エナジーパートナー公表

※廃棄物管理は2023年8月より実施

■ 環境目標・実績

※2023年7月より稼働開始

項目名	単位	2023年度		2024年度		評価	2024年度		2025年度	
		2023.7-2023.11		2024.7-2024.11			2023.12-2024.11		2024.12-2025.11	
		-	実績	目標	実績		基準値(実績)		目標	実績
		-	(実績把握)	基準年度比 1%減	基準年度比 削減率		基準年		基準年度比 1%減	基準年度比 削減率
電気使用量 ※1 	kWh	データ採取 (7月より 5ヶ月分)	133,517	132,182	162,617 (122%) 22%増加	×	1年間の実績データを採取。夜勤稼働を含む365日稼働となる状況と使用量の推移を監視する。	341,245	337,833	データ 採取継続
CO2排出量	kg -CO2	↑	60,884	60,275	74,153 (122%) 22%増加	×	↑	155,608	59,672	データ 採取継続
一般・産廃物 総排出量・金額 (①+②) 	kg	データ採取 (8月より 4ヶ月分)	34,944	34,595	51,681 (168%) 68%増加	×	RPF資源ごみへのリサイクル化への分別を強化、ストレッチフィルムも加えて推進。	139,288	137,895	データ 採取継続
	円	↑	532,136	526,815	680,301 (128%) 28%増加	×		1,790,107	1,772,206	データ 採取継続
水道水使用量 	m <sup>3</sup>	※賃料に含まれており、数値の把握はなし								

評価は、実績値/目標値の%で表す。削減目標の場合、100%以下なら「目標達成：○」、以上の場合は「未達成：×」とする。

※1 CO2排出係数 0.456kg-CO2/kWh；2023年 ENEOS(株)公表

作成日：2025年2月1日  
EA21推進委員会事務局 渡部

## 5. 環境経営計画の取組結果とその評価

<品川センター>

活動評価： ◎よくできた ○まずまずできた ▲あまりできなかった ×全くできなかった

### ■ 電力

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・スイッチの場所を明示（不要電気の特定）	◎	スタッフアルバイトの入れ替わりが頻繁にあり、センター内節電に関する間引き運用ルールが徹底されない時期があったが、朝礼昼礼で注意喚起を促した。 また、各庫内フロアのエアコン点検においては、定期的かつ自主的に朝礼後に拭き清掃などを取り入れて実施する行動が出てきた。フロン点検においてもようやく2月に実施でき、メンテナンスを取り入れることができた。
・不要照明の消灯（休憩時間での間引き）	▲	
・空調温度の適正化（温度管理シート作成）	◎	
・最終退出チェックリスト（電灯消し忘れ）	○	
・エアコンフィルター清掃（簡易点検、フロン点検）	◎	

### ■ 一般廃棄物

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・排出事業者の分別義務を徹底	◎	新期にストレッチフィルムのビニール系買取リサイクルとしてエコミーサーキュラーの循環を開始した。当初は、ビニールに種類がいくつかあり作業員は分別の困惑したが、該当品種ごとに色別に分けるごみ袋とその画像を貼付することにより「KAIZEN」、廃棄費用も大幅に低下することができた。
・新規ビニール回収への運用の遵守	◎	
・リサイクル数値報告により、見える化の工夫	◎	
・「KAIZEN」スペースの利用（情報共有）	○	

### ■ 産業廃棄物

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・劣化素材の5Sの徹底（鉄ネス、廃パレット）	◎	年々庫内の不明廃棄物量が低下。定期的な膿出しをすることにより、庫内空間が増え、レイアウト編成がしやすくなった。不良在庫処理金額も予測が経ち予算編成が容易となる。 屋上にあった寄せ集め残骸物も全て処理することができ、消防法空地としても遵守するに至った。緊急時の対応、避難エリアとしても確保した。
・リサイクルへの分別、コストを削減する	◎	
・庫内廃棄物の定期的排出（屋上）	◎	
・使用後パレットの運用ルール化	◎	

### ■ 水道

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・トイレ清掃自動機のチェック（毎日の清掃時）	◎	清掃担当が見える化チェックシートの利用を継続、アルバイトスタッフメンバーも協力した体制で編成し、清掃時間に負荷のかかりにくい工夫を施した。
・「節水」注意喚起ステッカーの貼付	◎	

### ■ 環境に配慮した製品・サービスへの取組

二酸化炭素の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・新規梱包資材関連の市場調査	▲	市場動向が円安原料高のコストアップの方向となり、新規「環境負荷低減型」資材を検討は一旦保留なる。一方、スマホアプリを用いたペーパーレス化は紙購入が激減した結果となり、労務管理工数の削減および事務費の削減に大きく貢献してきている。
・荷主向け環境配慮型資材の提案	×	
・アルバイト勤怠紙使用の削減（アプリ導入へ）	◎	

## 5. 環境経営計画の取組結果とその評価

<流山センター>

活動評価： ◎よくできた ○まあまあできた ▲あまりできなかった ×全くできなかった

※評価項目は品川センターと同様

### ■ 電力

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・スイッチの場所を明示（不要電気の特定）	○	1年間のフル稼働開始。 管理会社にて電力コントロール、夜勤含む365日24時間稼働となる。 温度湿度管理も庫内に自動計測機があるも、庫内の4点スポット作業エリアを測定管理継続。エアコンの設置はないがバースシャッターの開閉にてある程度調整している。天井送風機3基のみがある。 最終退出時のチェックリストにて消し忘れを防ぐ
・不要照明の消灯（休憩時間での間引き）	○	
・空調温度の適正化（温度管理シート作成）	◎	
・最終退出チェックリスト（電灯消し忘れ）	◎	
・エアコンフィルターの清掃	○	

### ■ 一般廃棄物

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・排出事業者の分別義務を徹底	◎	これまでの品川センターの廃棄運用方法をベースに実施。資源ごみはRPF燃料個体原料として、また包装材、ピッキングリスト紙類は古紙回収、溶解処理へ、加えて梱包廃ストレッチフィルムもリサイクル品として分別、可燃ごみの発生はほとんどない状態へ管理進行。稼働開始から首尾よく上手く回り、費用低減に貢献した。
・有価古紙回収への運用の遵守	◎	
・リサイクル化率報告により、見える化の工夫	-	
・「KAIZEN」スペースの利用（情報共有）	-	

### ■ 産業廃棄物

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・劣化素材の5Sの徹底（鉄ネス、廃パレット）	○	移管作業後、消防法誘導設置を優先にレイアウト整備を完了。不要の金属棚、木パレット、破損プラパレを一気に廃棄。品川と共通の運用ルールとして迅速に対応。 最終レイアウトが確定後、法令に準じた産廃置き場の明示、固定化を実施した。 本センターでは、室内保管の優良なプラおよび木パレットの買取り運用を開始した。
・リサイクルへの分別、コストを削減する	◎	
・庫内廃棄物の定期的排出	○	
・使用後パレットの運用ルール化	◎	

### ■ 水道

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・器具のオートチェック（毎日の使用時）	◎	水道使用および設備使用は共益費扱いにて、点検チェックも業者管理となる。センターにてスイッチ点灯および流水など自動調整される。節水掲示を貼付する対策を施した。
・「節水」注意喚起看板の貼付	◎	

### ■ 環境に配慮した製品・サービスへの取組

二酸化炭素の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・新規梱包資材関連の市場調査	▲	市場動向が円安原料高のコストアップの方向となり、新規「環境負荷低減型」資材を検討は一旦保留なる。一方、スマホアプリを用いたペーパーレス化は紙購入が激減した結果となり、労務管理工数の削減および事務費の削減に大きく貢献してきている。※品川センター同様
・荷主向け環境配慮型資材の提案	×	
・アルバイト勤怠紙使用の削減（アプリ導入へ）	◎	

## 5. 環境経営計画の取組結果とその評価

<本社>

【拠点】本社（秋葉原ダイビル10F/ 1,110.48 m<sup>2</sup> 335.91 坪）

5社でのシェアリングフロア（約150名）

【内対象従業員】7名（株式会社エスプールロジスティクス）【床面積】15m<sup>2</sup>

### 環境負荷低減活動

- 1) フロア全体にてLED照明
- 2) 節電活動
- 3) ゴミの分別活動（燃えるゴミ、プラスチック、ペットボトル、ビン、缶、ダンボール類）
- 4) 5S活動（始業前に清掃、担当表にて実施管理）
- 5) 長時間労働の削減  
→ 勤怠管理方法 ➡ 週次で残業時間注意喚起
- 6) サステナビリティ教育  
→ 企業のサステナビリティ推進を支援する動画研修『PivottA(ピボッタ)サステナ』  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000066.000004500.html>

【実施結果】○：よくできた、△：不十分である、×：できなかった

- 1) ○ 入居時から既存照明はLED
- 2) ○ 未使用エリアの消灯、掲示による注意喚起等
- 3) ○ テナントの指示どおり法令遵守対応
- 4) ○ 各社割り当てられた箇所を毎日清掃・保健室で作成、掲示
- 5) × 管理監督者の残業時間減とならず。

新規採用しており、教育中。独り立ち次第減残業時間見込み、としています。

- 6) ○ 計画的に気候変動をはじめとする環境課題に関する動画研修を実施視聴

尚、グループ会社共有にて、各使用量、排出量の数値は測定できませんので、活動結果およびできる評価を記載しております。

**エスプールグループにおける環境経営方針** <https://www.spool.co.jp/sustainability/policy.html>

### サステナビリティ方針

エスプールグループは「アウトソーシングの力で企業変革を支援し、社会課題を解決する」をミッションに掲げています。私たちは、地球市民として真摯に社会課題および環境課題に向き合い、事業活動を通じて当社グループらしい付加価値を創造することで、その解決に取り組んでいきます。

### サステナビリティ推進体制

当社グループは、社会の持続的発展への貢献と、中長期的な企業価値の向上を目的に、「サステナビリティ推進委員会」を設置しています。四半期に一度開催される委員会では、企業ブランディング、気候変動関連課題を含めた環境対応、社会貢献、従業員エンゲージメントなどのサステナビリティに関する取り組みについて協議を行っています。

## 6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

<品川センター・流山センター共通>

法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りです。

	品川	流山	
適用される法規制	●	●	適用される事項（施設・物質・事業活動）
廃棄物処理法	●	●	産業廃棄物（廃プラ、鉄くず等）委託基準、保管基準、電子マニフェスト保管
消防法（危険物）	●	該当なし	危険物の保管（第4類アルコール類）※
フロン排出抑制法	●	該当なし	業務用空調機（簡易点検・定期点検を実施する）

※保管量を1ヵ月ごとに棚卸し調査し、指定数量以下であることを管理している。

環境関連法規制などの遵守状況の評価結果、環境関連法規制などは遵守されていました。

当社が該当する上記遵守事項について、抵触する旨の指摘及び訴訟は、関係機関からありませんでした。

また、近隣などの外部苦情もありませんでした。

## 7. 2024年度結果と2025度の目標

2024年度（25期） 実績まとめ 2023.12-2024.11

### （1）エコアクション2.1 認証登録・継続（2024/8/5）

➡ 品川センター（中間継続）・流山センター（拡大審査次年度へ）

※流山センター2023.7月～新設稼働・実績把握

#### <環境配慮・負荷低減活動>

### （2）●廃棄分別運用によるコストダウン化

品川 ①資源ごみへの詳細分別による資源化・高リサイクル化率 → **94.5%**（前年97.9%）（Ave./年）※3月汚泥産廃

流山 ※品川の運用法をモデルに推進実行 → **99.8%**（Ave./年）

品川・流山 ②古紙・ダンボールの買取りルート回収運用**継続安定** ➡ 各フロアスペース圧迫回避

#### 新規<KAIZEN・負荷低減活動>

品川 ③資源ごみ「袋数単位の請求」 ➡ 体積圧縮指導強化、コストダウンへ

品川・流山 ④ストレッチフィルム（ビニール類）の分別 ➡ 買取り回収運用、コストダウンへ

		2020.12-2021.11	～2022.11	～2023.11	～2024.11		
		22期	23期	24期	25期		
品川	廃棄費用（年）	¥4,107,497	¥3,208,172	¥2,600,114	¥1,335,138		
	前期比	基準年	¥-899,325	¥-608,058	¥-1,264,976	低減（金額）	
流山				¥532,136	¥1,790,109		
		※8月より稼働開始（4ヵ月分）					
		●電気使用量の削減（CO2削減）				※22期基準（3%減）	
						増減	
品川		22期	23期	24期	25期	前期比	
	kWh（年）	636,682	613,298	584,528	566,752	-17,776	-3.0% 97.0%
	kg-CO2	314,521	292,543	278,820	270,341	-8,479	
	料金	¥11,732,747	¥15,282,989	¥18,481,690	¥15,842,240	-2,639,450	-14.3% 85.7%
						※10月まで	
流山				24期	25期		
	kWh（年）			133,517	341,245		
	kg-CO2			60,884	155,608		
	料金			¥4,511,425	¥11,627,142		
		※8月より稼働開始（4ヵ月分）					

### (3) ペーパーレスPJの施行

- アルバイトスタッフ勤怠管理における**携帯アプリ運用の導入の推進、紙購入量の削減**
- システム工程変更による紙使用量低減および業務効率へのKAIZEN

(品川)	24期	25期	前期比	増減	
購入量 (セット)	800	505	-295	-36.9%	63.1%
購入金額	¥2,397,985	¥1,613,150	¥-784,835	-32.7%	67.3%

### (4) 負の遺産の健全化

- センター統合による**不良在庫の処理**、スプレッドシートによる日々監視 (**1/4期ごとの定期廃棄処理**)
- 廃木パレ、廃プラパレの**貯留量の監視**および**買取り運用**の推進・強化

### (5) カーボンニュートラルの推進

- **電力**の**非化石証書の取得** (実質排出量0) /再エネ100宣言 RE Action団体参画活動との連動

### (6) EA21推進委員会の組織化と安全衛生委員会の連携の定着化

- 安全・衛生を伴う環境管理活動の**安全衛生委員会**としての**自走定着化**を目標に5S中心の**教育指導**を実施

### (7) KAIZEN教育環境の基盤構築

- **アイデア抽出掲示板**の**設置**と**小さいことから**の**自走化**へ
- アルバイトスタッフの**スキル習熟度評価**の見直し

## 2025年度 環境方針

エスプールグループは、地球市民の一員として、グローバルな課題である環境問題に対して重要な課題であると認識し、

SDGsが対象としている地球環境と当社事業活動との調和を図り、環境に配慮した企業経営を推進していきます。

S-POOL CSRサイト参照 [https://www.spool.co.jp/csr/environment.html#content\\_01](https://www.spool.co.jp/csr/environment.html#content_01)

S-POOL サステナビリティ サイト参照 <https://www.spool.co.jp/sustainability/policy.html>

S-POOL-Logi サイト参照 <https://www.spool.co.jp/service/logi/>

### 2025年度の事業方針（特記）

#### 重点課題

- ・エコアクション推進委員会によるKAIZEN活動を継続実施（使用エネルギーの把握、センター5Sの推進）し、SLGの文化の礎とする。
- ・品質推進部の新設における品質管理強化とセンター品質、収益率の共鳴安定化を図る

#### 環境経営方針（中長期）

- ・グローバル化推進
- ・働きやすい環境の創生
- ・省資源、省エネの推進
- ・顧客の環境負荷削減に貢献する
- ・地域の活性化貢献

#### コスト削減

- ⇒ エネルギー使用量の削減
- ⇒ 廃棄物の削減
- ⇒ 不良品削減
- ⇒ 梱包材の効率的使用
- ⇒ 勤務時間の適正化（働き方改革）

（二酸化炭素排出量低減）

#### 環境経営目標・活動計画

- ・電気使用量削減 1～3%
- ・廃棄物の削減 2%
- ・水使用量削減 2%
- ・環境配慮製品の導入検討継続
- ・システム工程の見直し、変更
- ・社内組織の再構築、人材交流
- ・システム管理の強化

#### 2025年度の施策（特記）

- ・非化石証明書取得（経年継続）
- ・リサイクル率98%から99%台へ ※**廃ラップの仕分け、廃木パレ買取り運用へ**
- ・ペーパーレスアプリ運用の定着化 ※100%完了目標
- ・発行伝票電子化における生産性の向上
- ・環境負荷低減素材の検討
- ・循環型再生品への試行 ※**廃ビニールの分別回収による**
- ・教育訓練習熟度の管理 再生ごみ袋の循環

## 8. 代表者による全体の評価と見直し指示

一昨年の2023年7月に、それまでの物流拠点つくば、浦安、品川（一部）を新設流山へ集約移管しました。それまでは、品川センターを中心とした事業形態でありましたが、現在は流山センターが365日24時間稼働の大規模な基幹センターとしての位置づけとなってきています。

品川センターにおいては、5年目の更新2の認証登録に向かって、さらに流山センターにおいては、1年間の実績データが出そろう中で品川モデルを基盤として共有し、認証審査へ申請、「環境配慮型物流センター運営の実施」を事業の重点方針として位置付け、エコアクション21のPDCA報告・運用を最重要事項として実行評価していきます。

### ■新設ALFALINK流山センター・品川センター（共通）

環境負荷低減を目的とした新規取り組みに関して、

#### 1) 廃棄物の高リサイクル化（エコミーサーキュラー）ビニール分別回収に付随する廃棄費用コストダウン

両センターとも、リサイクル率96～99%にて推移し、目標経営指標に到達しました。

その達成要因は、エコアクション推進委員会で課題を共有、KAIZEN活動として自走しはじめていたことが大きいと考えています。

①エコ活動成果の数値化による「見える化」および達成手段の定期的な教育の場の共有

②現場環境担当者と事務局でのセンター内の定期的な安全・衛生パトロール（5S巡回視点からの工夫）

これらを更に浸透させるため、アルバイトスタッフ含む全従業員への教育活動が大きな鍵であり、「環境活動導入ガイダンス」を入社時に研修し、その後スキル評価に基づく教育実施体制を具現化しつつあります。

**■環境負荷低減活動が品質管理強化の基盤として**

①増加アルバイトスタッフの労務管理に対して携帯アプリを用いたペーパーレス化と共に負荷時間の短縮促進（ミスの低減）

②全荷主対象伝票発行作業工数の削減を目的としたシステム工程改善（残業時間の減少）

③定期開催エコアクション21推進委員会でのBefore-After画像による是正処置状況の「見える化」で再発防止徹底

課題としては、流山センターの3基の大型シーリングファンおよびスポット空冷機はあるものの、商品管理、従業員の体調管理の不十分さの面からの生産性を是正するため空調機の導入を検討中であります。その際には、季節および日時に応じて電気使用量について、改めて工夫を施す対応が必須となります。「再エネ100宣言Re Action」の活動は継続、「非化石証書」にてカーボンオフセットを実施していきます。

次ステップとしては、品質管理の強化としても支えるエコアクション活動が共鳴化し、「KAIZEN」ムリ・ムダ・ムラの排除が高品質商品、再発防止策を生み、より高いステージの環境経営と企業価値を目指していくことを目標としています。

また、本社メンバーの活動については、継続してグループ方針に従い、負荷低減活動を共有して行うようお願いします。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更有
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更有
実施体制	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更有

社長執行役員 梅田 和督